

実質化された人・農地プラン

市町村名	対象地区名	作成年月日	直近の更新年月日
宇都宮市	横川地区	令和3年3月29日	令和5年9月29日

1 対象地区の現状

①地区内の耕地面積	660 ha
②アンケート調査等に回答した地区内の農地所有者又は耕作者の耕作面積の合計	341 ha
③地区内における70才以上の農業者の耕作面積の合計	229 ha
i うち後継者未定の農業者の耕作面積の合計	38 ha
ii うち後継者について不明の農業者の耕作面積の合計	141 ha
④地区内において今後中心経営体及び農地の守り手・支え手が新たに耕作する意向のある面積の合計	111 ha
(備考)	

2 対象地区の課題

耕作者の65%は後継者がおらず、現在の経営規模を維持する意向を示している耕作者は全体の60%に留まり、10年以内には約20%の農家がいなくなる恐れがある。中心経営体の耕作面積が地域の大半をカバーしているため、これら中心経営体が効率的に営農を継続できるよう農地の集積・集約化を図る必要がある。

3 対象地区内における中心経営体等への農地の集約化等に関する方針

担い手への農地の集積率を向上できるような提案を関係機関と連携しながら進め、地域の農地全体における営農継続を図っていく。

中心経営体や農地の守り手・支え手のうち規模拡大希望者及び新規参入希望者に対して、関係機関と連携して条件の良い圃場を斡旋しながら営農継続を図っていく。

中心経営体

属性	農業者 (氏名・名称)	現状		計画		備考
		経営作目	経営面積	経営作目	経営面積	
認農		水稲	9.0 ha	水稲	10.0 ha	
認農法		花卉	1.0 ha	花卉	1.0 ha	
認農		トマト	0.2 ha	トマト	0.2 ha	
認農		水稲, 麦	25.0 ha	水稲, 麦	25.0 ha	
認農		苺	0.2 ha	苺	0.2 ha	
認就		—	—	苺	0.6 ha	
認農		水稲, 麦	39.0 ha	水稲, 麦	50.0 ha	
認農		水稲, 麦	30.0 ha	水稲, 麦	40.0 ha	
認就		—	—	苺	0.2 ha	
認農		水稲, ニラ等	3.2 ha	水稲, ニラ等	3.2 ha	
認農		肥育牛	100頭	肥育牛	100頭	
		水稲	2.7 ha	水稲	5.8 ha	
認農法		水稲	5.0 ha	水稲	10.0 ha	
		肉牛	50頭	肉牛	100頭	
認農		水稲, トマト	1.2 ha	水稲, トマト	1.2 ha	
認農		水稲, アスパラガス	2.9 ha	水稲, アスパラガス	2.9 ha	
認農		苺	0.3 ha	苺	0.3 ha	
認農法		—	—	野菜	1.0 ha	他地区あり
認就		—	—	野菜	0.3 ha	他地区あり
認農		水稲	3.5 ha	水稲	10.0 ha	
認農		麦	11.0 ha	麦	15.0 ha	
認農		水稲, 野菜	5.0 ha	水稲, 野菜	5.0 ha	
認農		水稲, 麦	7.0 ha	水稲, 麦	12.0 ha	
認農法		肥育牛	200頭	肥育牛	250頭	
認農		肥育牛	70頭	肥育牛	85頭	
集		WCS用稲	2.0 ha	WCS用稲	5.0 ha	
認農		水稲	4.0 ha	水稲	4.0 ha	
		肥育牛	30頭	肥育牛	30頭	
認農		苺	0.3 ha	苺	0.6 ha	
認農		水稲	2.8 ha	水稲	3.5 ha	
認農		水稲	2.5 ha	水稲	2.5 ha	
認農		水稲, 麦	15.4 ha	水稲, 麦	25.0 ha	
認農法		洋らん等	0.1 ha	洋らん等	0.2 ha	
認農		水稲	3.5 ha	水稲, 麦	4.0 ha	他地区あり
認農		水稲	3.5 ha	水稲, 麦	5.0 ha	
認農法		小松菜	6.0 ha	小松菜	6.0 ha	
認農		水稲, トマト	2.8 ha	水稲, トマト等	4.0 ha	
認農		水稲	8.0 ha	水稲	8.0 ha	
		肥育牛	40頭	肥育牛	40頭	
認農		麦, 水稲	16.0 ha	麦, 水稲	20.0 ha	
認農		水稲, 麦	11.0 ha	水稲, 麦	40.0 ha	
認農		水稲, 麦	27.0 ha	水稲, 麦	30.0 ha	
到達		苺	0.5 ha	苺	0.5 ha	

認農		水稻	1.5 ha	水稻	3.0 ha	
認農		水稻, 野菜	5.0 ha	水稻, 野菜	5.0 ha	
認就		—	—	ミニトマト	0.1 ha	他地区あり
認農		水稻 繁殖牛	8.9 ha 50頭	水稻 繁殖牛	9.0 ha 60頭	
認農法		—	—	苺	0.5 ha	
認農		水稻	3.0 ha	水稻	6.5 ha	
認農		野菜	3.2 ha	野菜	3.2 ha	
認就		苺	0.5 ha	苺	0.7 ha	
認農		水稻	1.0 ha	水稻	1.0 ha	他地区あり
認農		水稻, 苺	1.6 ha	水稻, 苺	1.5 ha	
計		49人		276.3 ha		382.7 ha

農地の守り手・支え手

属性	農業者 (氏名・名称)	現状		計画		備考
		経営作目	経営面積	経営作目	経営面積	
		水稻	3.5 ha	水稻	3.5 ha	
		水稻	2.8 ha	水稻	2.8 ha	
		水稻	2.7 ha	水稻	4.0 ha	
		ソルガム	0.5 ha	ソルガム	0.5 ha	
		水稻	2.0 ha	水稻	2.0 ha	
		水稻	2.0 ha	水稻	3.0 ha	
認農		水稻, 野菜	3.0 ha	水稻, 野菜	3.3 ha	
		水稻	1.0 ha	水稻	1.0 ha	他地区あり
		水稻	2.1 ha	水稻	2.6 ha	
		水稻	2.5 ha	水稻	2.5 ha	
		水稻	1.5 ha	水稻	1.4 ha	
		水稻	2.3 ha	水稻	1.5 ha	
		水稻	1.2 ha	水稻	1.2 ha	
		水稻	0.8 ha	水稻	1.0 ha	他地区あり
		水稻	1.7 ha	水稻	1.7 ha	
		水稻	4.2 ha	水稻	4.2 ha	
		水稻	2.4 ha	水稻	3.0 ha	
		いちご	0.2 ha	いちご	0.2 ha	市外
認農法		—	—	いちご	0.6 ha	
		水稻	3.0 ha	水稻	3.0 ha	
	水稻, 花木	2.0 ha	水稻, 花木	2.5 ha		
計	21人		41.4 ha		45.5 ha	

4 3の方針を実現するために必要な取組に関する方針

農地中間管理機構の活用方針

地区を東・中・西に分け、相談役を2名ずつ設置し相談を受ける。
また、農地の貸し借りについては、将来の経営農地の集約化を目指し、積極的に機構を通じた貸付けを進めていく。

高収益作物の導入方針

米、麦等の土地利用型作物以外に、収益性の高い露地野菜の生産導入について検討していく。

耕畜連携の取組方針

土地利用型だけでなく、畜産農家もいるため、耕畜連携として飼料作物の生産に取り組む。

園芸農家との連携方針

稲作農家と園芸農家が連携し、各々の繁閑に合わせて互いに作業受委託しあうことで、土地利用型の規模拡大に取り組む。

基盤整備への取組方針

農作業の効率化を図るため、農地耕作条件改善事業などを活用しながら農地の大区画化に取り組む。